

地域経済動向調査報告書

令和4年1月

吉富町商工会

1. 地 勢

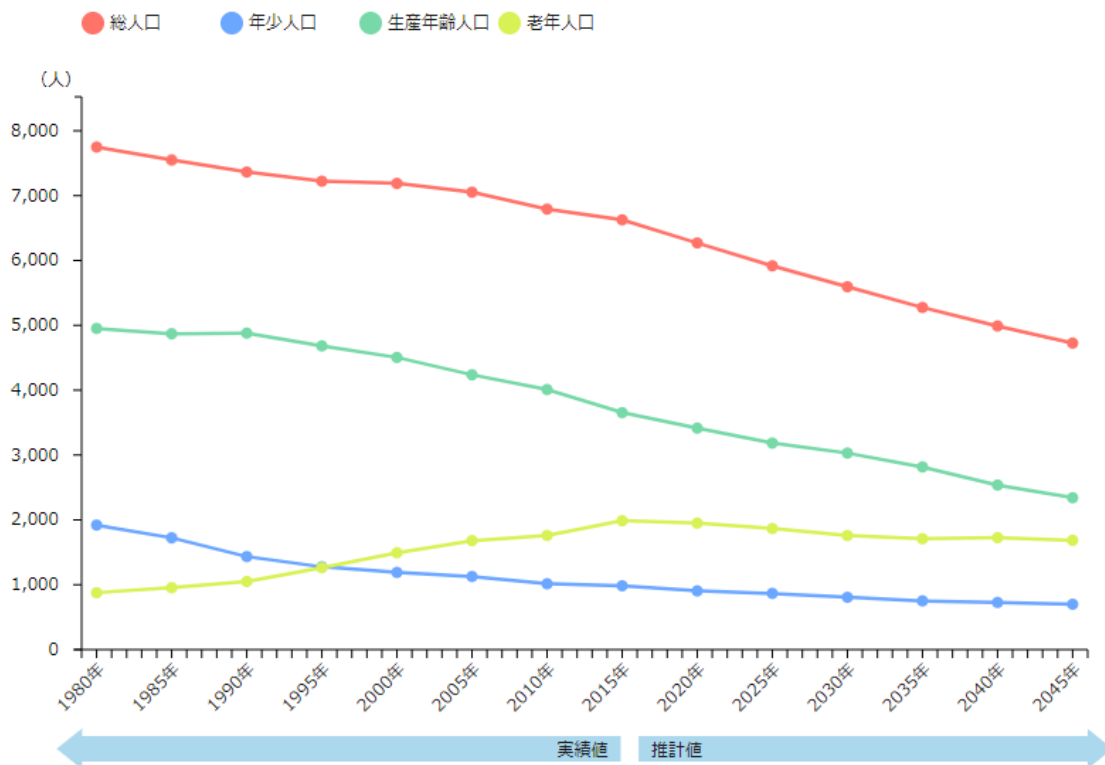
吉富町は、福岡県の最東端に位置し、東は山国川を境に大分県中津市、西は海岸沿いに豊前市、南は上毛町に接し、北は周防灘に面している。西南より北ないし東北にむけてゆるやかな傾斜をした平坦地で、山国川と佐井川に挟まれた東西 1.8km、南北 4km、面積 5.72 km²の町である。

明治 21 年の市町村制施行によって翌 22 年に東吉富村と高浜村が誕生し、明治 29 年築上郡設置の際、当時の高浜村を山国川の境として西側の小祝(高浜)、小犬丸を東吉富村に編入、現在の姿となった。

昭和 15 年吉富製薬株式会社が創立されたことにより、企業城下町として栄え現在に至っている。

2. 経済の現状と比較

(1) 居住者の現状と今後の予測

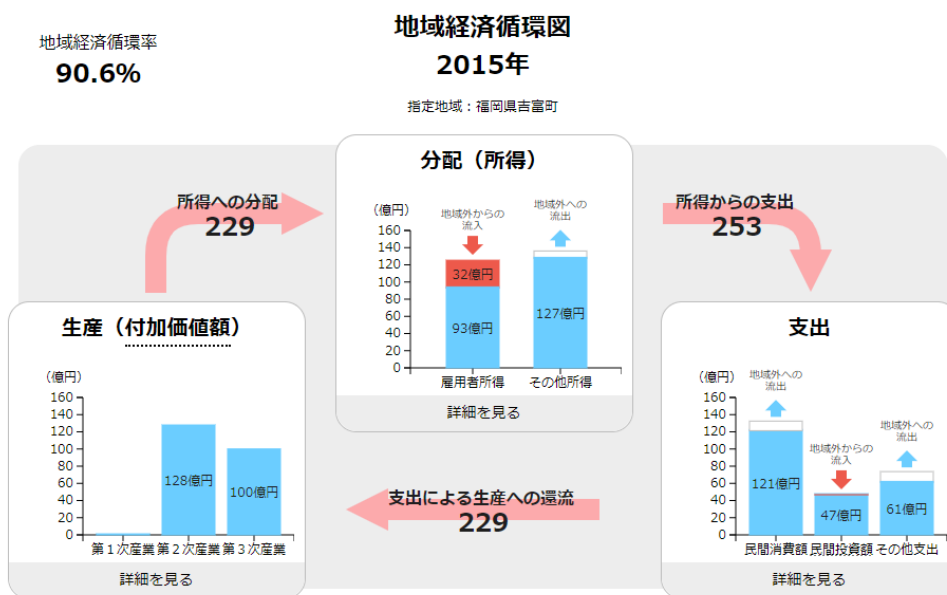


現在（令和 3 年 12 月 31 日現在）の吉富町の人口は 6,724 人である。総人口は 1980 年に 7,749 人であったが減少を続け、この 40 年間で 13%減少している。

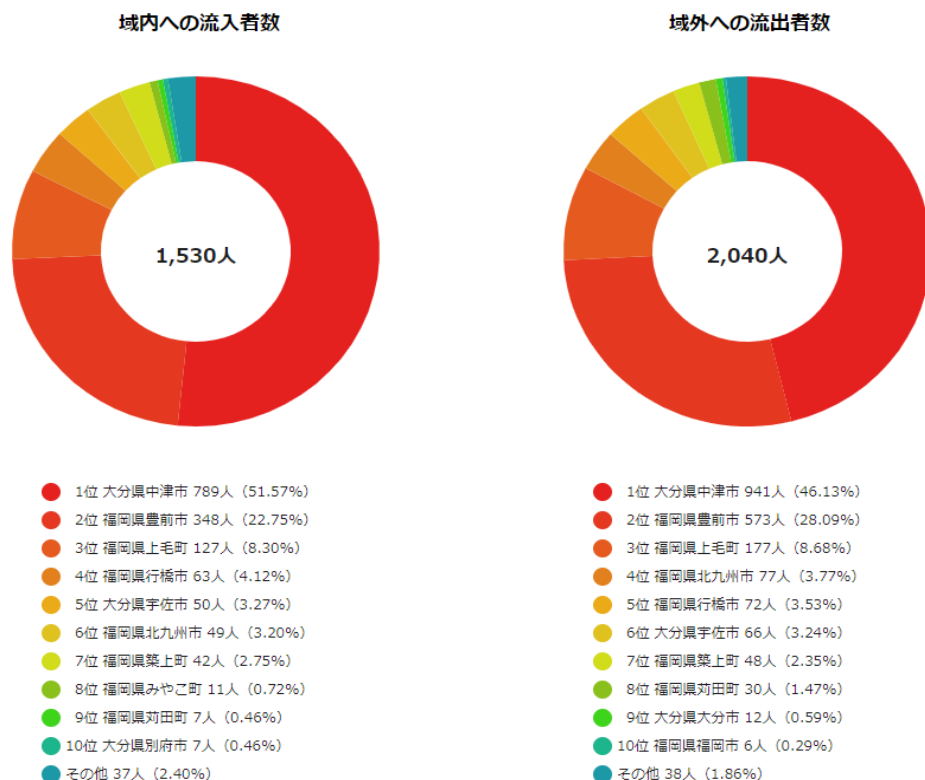
2015 年の統計では福岡県の平均と比べ、年少人口割合と老年人口割合は高く、生産年齢人口割合は低い状態であることから、高齢化は県内平均に比べ進展しているものの、少子化は県内平均よりも進展していない現状が分析できる。

今後の予測では 2030 年の人口は 5,595 人、2040 年の人口は 4,990 人と人口減少が進展する見込みである。

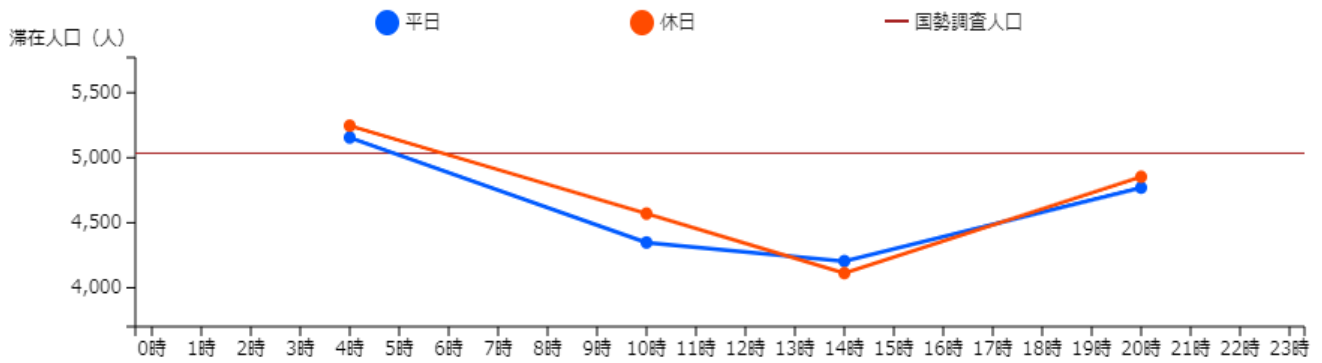
(2) 経済の現状



吉富町の経済の現状は、所得が地域外から地域内に流入している状況であり、雇用者所得では実に32億円の流入過多となっている。これは、町内の居住者が町外で勤務し所得を得ていることを示しており、生産年齢人口割合が県内平均値よりも低いことと合致している。



上図は町吉富町におけるの通勤者の流入流出者数である。所得の流入超過の要因として町外での就業人口の多さが挙げられる。実際に、町外流出人口は2,040人、流入人口は1,530人と500人以上の流出過多であり、その主な流出先は隣接する大分県中津市と福岡県豊前市である。



一方で、支出は民間支出額 132 億円の内、11 億円の流出過多となるなど、地域外で勤労した所得を町内ではなく町外で支出している傾向にある。

上図は吉富町における滞在人口の時間推移を表しているが、平日休日共に昼間人口の減少が見て取れる。このことから、勤労者が流出過多であることを差し引いても、町内の消費者が町外に滞在し消費を行っているという現状が見て取れる。

	第 1 次産業	第 2 次産業	第 3 次産業
付加価値額 (一人当たり)	136万円	1,186万円	743万円
付加価値額 (一人当たり) 順位	1,576位	328位	855位

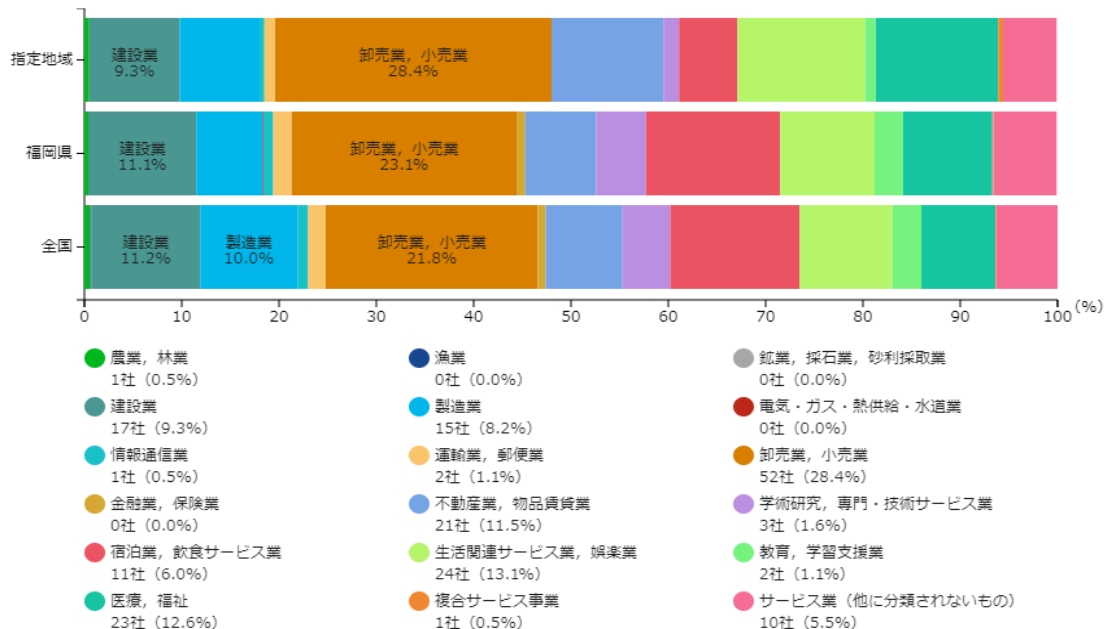
生産活動に関しては第 2 次産業の付加価値額は全国 1,719 市町村の中でも上位である一方で、第 2 次産業は全国でも中位であり、第 1 次産業の付加価値額は非常に低くなっていることから、第 2 次産業の生産性の高さと第 1 次産業の低さを相殺していることが読み取れる。

以上の点から、吉富町の経済状況は隣接する大分県中津市、豊前市での勤労所得により流入超過となっているが一方で、その流入超過分を町外で支出しているという現状が読み取れる。

(3) 経済の特徴

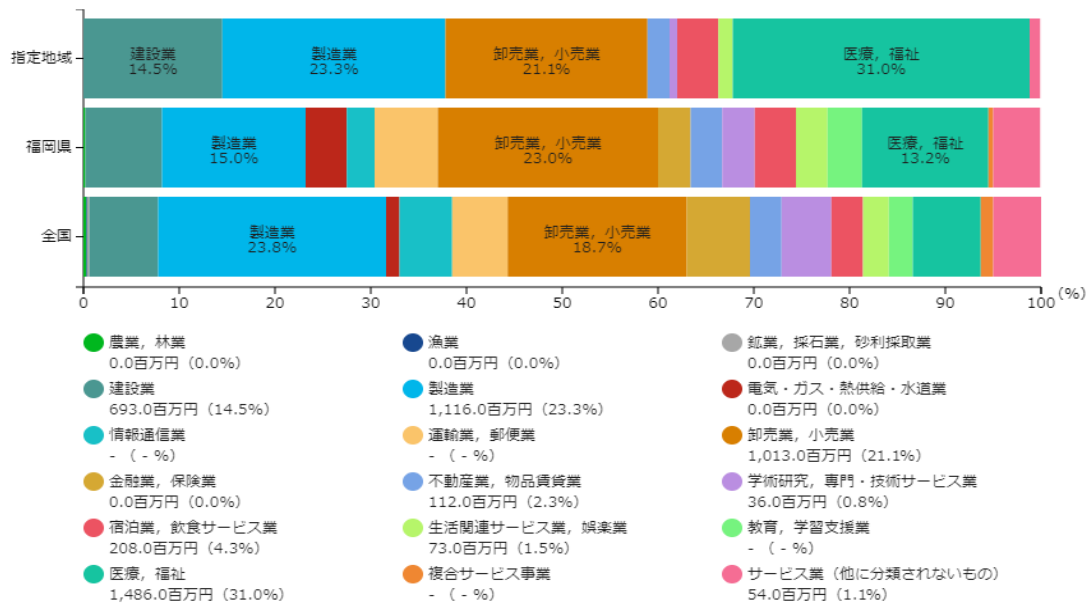
企業数(企業単位) 2016年

指定地域：福岡県吉富町



付加価値額(企業単位) 2016年

指定地域：福岡県吉富町



上図は吉富町、福岡県、全国における業種ごとの企業数の割合と付加価値額の割合である。

吉富町では卸売業、生活関連サービス業が高率である一方で、建設業、宿泊飲食サービス業の割合が低い一方で、企業数割合では全国より低率である建設業の付加価値額が高い。また、医療福祉は全国平均よりも効率の付加価値額を占めている。

(4) 経済の活性化の施策と今後の見通し

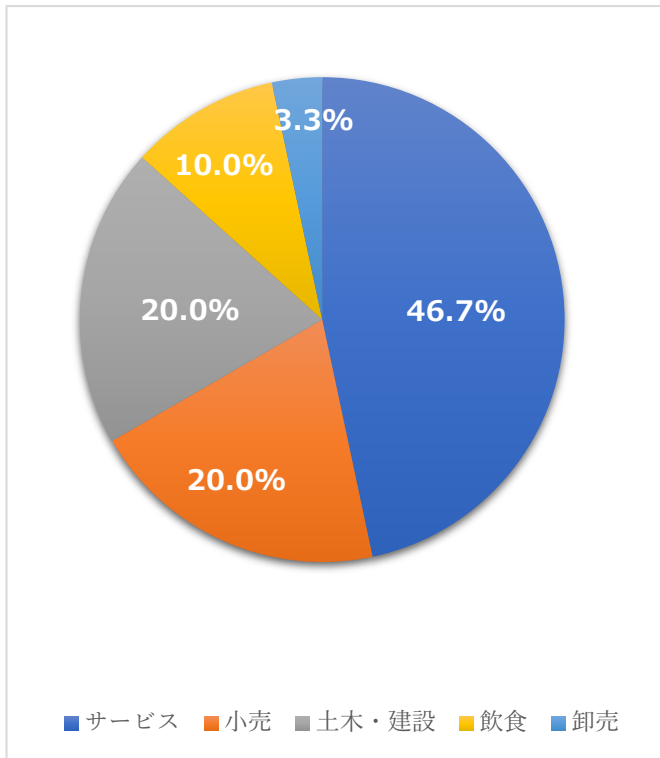
プレミアム商品券取扱店アンケート調査結果（令和2年度）

調査日：令和2年9月1日～令和3年2月16日

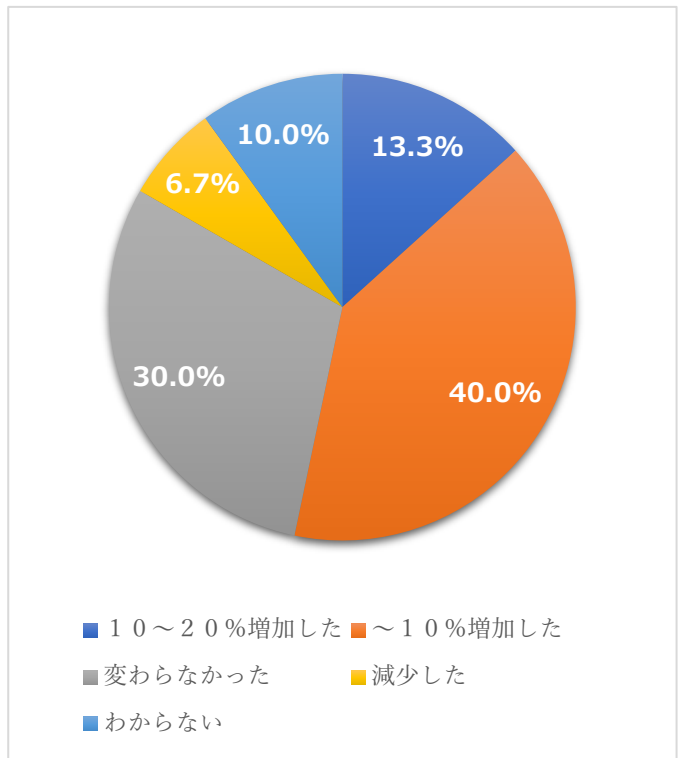
調査機関：吉富町商工会

有効回答数：30

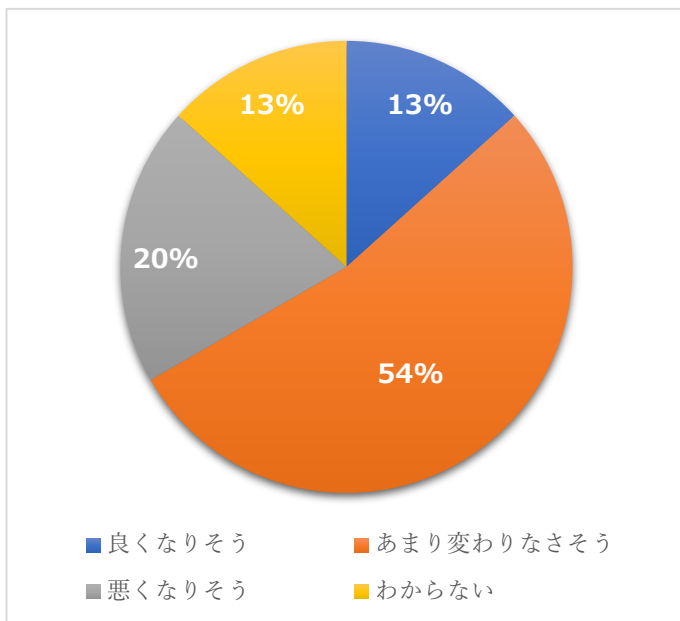
回答取扱店舗の業種構成



商品券販売前と比較した売上の変化



売上の見通し



吉富町商工会が発行したプレミアム商品券の加盟店アンケートによると、加盟店の売上に与えた影響に関して最も多かった回答が「10～20%増加した」であった。このことから、商品券の発行は一定程度地域の需要を喚起したと考えられる。

一方で、商品券加盟店による今後の売上の見通しで最も多い回答は「あまり変わりなさそう」であるが、「良くなりそう」から、「悪くなりそう」を引いたDIはマイナス7ポイントであり、今後の見通しは不透明な状況である。

3. 総論

吉富町における経済の動向は、地域外から流入過多となった勤労所得を地域外で支出するといった構図となっている。

今後、吉富町は人口減少が予想されており、高齢化の進展などから、現在の構図のままであれば、経済活動の縮小を余儀なくされる恐れがある。

一方で、業種構成に見られる福岡県平均に比べ高い製造業比率、今後高齢化の進展に伴って需要の増大が予想される福祉・医療分野の高い付加価値額、全国的に低調である建設業が全国平均と比べても高い建設業の付加価値額を生み出している現状は一概に暗い要素ばかりではないことを示している。

さらに、今後の見通しが不透明ではありながら、プレミアム付き商品券の消費を吸収できる事業所数が多いことなどから、成長を期待できる部分もある状況である。

しかしながら、現在の構図の脱却は簡単ではなく、大分県中津市や福岡県豊前市といった地域の中核都市と隣接しているという特色を活かし、需要の高い分野への新規創業者の進出支援などの対策を早急に考える必要がある。

資料出典：吉富町役場ホームページ <https://www.town.yoshitomi.lg.jp/>

内閣官房のまち・ひと・しごと創生本部

地域経済分析システム（RESAS：リーサス） <https://resas.go.jp/>